

## 平成22年度 川づくりコンペ 発表プログラム(案)

発表No.	発表時間	グループ	発表者			題名	事例の概略説明	グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
			所属	職	氏名			多自然川づくり	地域住民との協働	モニタリング、追跡調査	工事現場での工夫
1	10:20～10:35	1	日向土木	主査	山口 勝弘	河床整地の試行錯誤	過去に実施した他の河川の河床整地の実績を参考に、地元漁協や現地踏査などを踏まえて、管内の河川における河床整地の方法を模索中である。	○			○
2	10:35～10:50	1	宮崎土木	主査	岩元 聡	山内川多自然川づくり	山内川上流部は田園地帯が多く自然を感じさせる区間である。そこで、治水機能は確保しながらも、河川が自らの力で川らしい地形をつくるメカニズムを活かすとともに、洪水時の流速を大きくしないため、流量に応じた河幅を確保することを基本として多自然川づくりに配慮した。	○			○
3	10:50～11:05	1	西都土木	主査	山下 修	三財川の多自然川づくり	三財川掘削工事の方針は、低水路部分は水中環境の保全を目的に掘削をせず、高水敷のみの掘削としている。また、水辺環境の保全を目的に、掘削高も水面から約1m上からとしている。	○			○
4	11:05～11:20	1	高鍋土木	主査	久保田 修司	宮田川の河川整備について	蛇行区間の流下能力の向上を図るため暫定掘削を実施しており、環境保全の観点から土羽構造とし自然流下作用による多様性の回復を期待した。	○			○
5	11:20～11:35	1	延岡河川国道事務所		梶谷 憲靖	五ヶ瀬川野田地区周辺の川づくりについて	延岡市のシンボルでもある五ヶ瀬川を今後のまちづくりに活かしていけるように、地元住民、関係者の方々の意見を収集し、環境、利活用、景観に配慮した河道掘削の設計及び施工を行ってきた。	○			○

### 午前の部 討論会(11:35～12:00)

6	13:10～13:25	2	日南土木	技師	村田 洋樹	魚類等に配慮した値固めブロックの設置	河床埋め戻しに粘性土主体の土砂を使用し、根固めブロック設置区間の中間点付近(縦断方向)のブロック設置高を下げることにより、濁水時にも水が溜まり、魚類の生息箇所を確保することとした。			○	○
7	13:25～13:40	2	高岡土木	主幹	相牟田 浩明	人を惹きつけるかわ	自然の川そのものに毎夏、大勢の人が押し寄せてくるスポットがある。何に惹かれて集まってくるのか、その要因を知りたく、アンケートを実施し、今後人が集う河川づくりを目指す場合の一考察とする。		○	○	
8	13:40～13:55	2	延岡土木	主査	轟木 政弘	キレイな堀川運河を取り戻そう	堀川運河周辺の遊歩道や広場の整備により、うるおいと賑わいのある水辺ができたが、肝心の水が濁り、臭いがするなどの問題がある。EM菌やアサリの放流により水質改善へ取り組んでいる。		○	○	

### 休憩10分

9	14:05～14:20	3	串間土木	主査	藤井 一寿	千野川の取り組み	事業区間内が堆砂傾向にあり、流下能力不足となっている。生物に配慮した計画・実施であったが、守るべきホタルが減少してしまった。	○		○	
10	14:20～14:35	3	高岡土木	技師	前畑 光一郎	人も魚も虫もよってらっしゃい。～麓川改修工事より～	河道の拡幅に当たり、三面張河川の片岸のみの拡幅を行いコストの縮減を図った。生態系に配慮し、自然石を用いた護岸整備を行った。また、ワンド、階段を設置し、人が近づける空間を創出した。		○	○	
11	14:35～14:50	3	宮崎河川国道事務所		立田 安礼	宮崎河川国道事務所における多自然川づくりの課題について	今後、多自然川づくりを進めるにあたって、多自然川づくりの工事の進める上での改善点等を、入所5ヶ月足らずの発表者の目線ととりまとめしてみた。	○			○